

坂戸市障害者計画等計画等審議会 会議録

会議の名称	令和８年度第１回坂戸市障害者計画等審議会
開催日時	令和８年６月２３日（火） 午後２時００分 開会 午後４時１０分 閉会
開催場所	坂戸市役所２０１会議室
議長の氏名	高橋会長
出席者の氏名・出席数	高橋会長、清野委員、永井委員、田中委員、古野委員、木村委員、 芝寄委員、太田（正）委員、長野委員、渡邊委員、佐藤委員 計１３名
欠席者の氏名・欠席数	井伊委員、太田（よ）委員 計２名
事務局職員の職・氏名	福祉部 三谷部長 福祉部 井田次長 福祉部 障害者福祉課 岡崎課長、田畑課長補佐、松本係長、大塚係長
会議次第	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 議事 （１）坂戸市障害者計画等実施状況（令和７年度事業実績及び令和８年度事業計画）について （２）障害者福祉に関するアンケート調査報告書について （３）坂戸市障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画の構成及び坂戸市障害者計画、坂戸市障害福祉計画（第８期）、坂戸市障害児福祉計画（第４期）の骨子案について ４ その他 ５ 閉会
資料	・令和８年度第１回坂戸市障害者計画等庁内推進会議次第 ・【資料１】障害者計画等に係る事業の進捗状況について（令和７年度実績） ・【資料２】令和７年度障害者計画等事業実績及び令和８年度障害者計画等事業計画 ・【資料３】障害者福祉に関するアンケート調査報告書 ・【資料４】坂戸市障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画の構成 ・【資料５】坂戸市障害者福祉プラン 骨子案 ・【資料６】坂戸市障害者計画、障害福祉計画（第８期）、障害児福祉計画（第４期）策定スケジュール

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
進行（事務局）	1 開会 2 挨拶 会長 次期障害者福祉プランの策定に向けて、目標の数値だけでなくその背景をしっかりととらえていくことが重要。アンケートの結果も踏まえ幅広いご意見をいただきたい。
進行（会長）	3 議事 （1）坂戸市障害者計画等実施状況（令和7年度事業実績及び令和8年度事業計画）について
事務局	資料1～2を説明
委員	資料2 事業番号65及び84の拡大教科書が未実施になった理由は。
事務局	小中学校でのタブレット端末の活用が進み、活用機会が少なくなったことと、作成に携わっていたボランティア団体が高齢化の影響もあり解散したことによるものである。
委員	事業番号65及び84の拡大教科書の事業が「未実施（D判定）」であることについて、拡大教科書を作成していたボランティア団体は、2年前から解散しており、事業を行うことができないと考えると、事業番号35の訪問事業の充実が別事業に移行したため判定無しとした扱いと同じく、判定無しとすることが妥当ではないか。
事務局	事業終了と未実施の扱いの違いについては、改めて検討し、同じ基準で評価・記載できるよう整理し次回報告する。
会長	全体としては概ね計画のとおりに進められているようだ。
事務局	（2）障害者福祉に関するアンケート調査報告書について 資料3を説明
委員	頼れる、制度に精通した職員が少ないという意見に対して、多様な手段で情報発信することが重要だと思う。人的制約については、AIなどの技術を活かしたらどうかと考える。
委員	長く重層的支援体制整備事業が言われているように、この調査でも相談窓口が必要と示されている。障害の範囲は広く、また高齢者も含めてとなるが、スキルのある職員が対応する相談窓口が大切であると改めて感じた。
委員	高齢者福祉の支援と通じるところがある。広い角度から検討が必要だ。 本人のアンケート結果の問35では、意思疎通に困る場面として、医療機関や公共交通機関と共に行政機関が上位に入っている。その理由についてどのように考えるか。また、障害種別の分析があるとよいと思う。
会長	障害種別のグラフは掲載されているが凡例が小さい。もう少しわかりやすいように今後願います。行政機関で困る件について、事務局はいかがか。

事務局 委員	アンケート結果をさらに分析し、どのように対応していくかを検討する。 自分は車いす生活をしている。生活にも不便がありデイサービスも利用している。アンケートも自分のことと重ね、今後自分で生活がどこまでできるか不安がある。
委員	最近はこどもの発達障害について早期に発見されているが、親世代の時はそうでなく、大人になって自身が発達障害であることに気づく場合もあると聞く。生きづらさや親自身が気づけていない場合もある。発達障害のこどもを抱えて困っているそうした人について、これからも行政が気にかけて寄り添った支援が増えるといいと思う。また、相談支援事業所の相談員の数も足りていない実態がある。サービス利用プラン作成を親がやらなければならない、それができない家族との間で格差が生まれている。その点を考えてほしい。
委員	ハローワークでも障害者の就労についての議論をしているが、対象は働ける障害者に限定されている。今日の会議での対象者は幅広いが、自治体によっては分科会で行っているところもある。
委員	成年後見制度の認知度が低いという結果に驚いている。法改正の動きも注視しながら制度の利用促進の仕組みができることを希望する。
委員	10歳未満のこどもを対象とした放課後デイサービスを運営している。保護者の方と話をしていると、アンケートの結果同様に相談先の少なさや相談員に何を相談すればよいのかに困っている人が多い。支援につながる以前に、少しでも相談が効果的にできるように行政の支援があるとよい。
委員	保育園などの現場を見学すると、インクルーシブとは遠いと感じることがある。アンケートを活かして改善していただけると良いと思う。
委員	特に家族の負担が大きいことがアンケートに表れていると感じた。親の存在は大きいので、親亡き後の不安は特に検討が必要だと思う。
委員	自由記述は、当事者の生の声書かれており重要だ。このアンケートをぜひ活かして欲しい。親亡き後について支援制度の整備、行政の手続き簡素化、窓口が不足している現実があると感じた。
委員	新しい福祉サービスを受けるには、その情報を早く手に入れる必要があるが、相談員よりも同じ親を通じたほうが早い。隣接市町で一括して情報提供されることを期待している。
委員	災害について、障害者やその家族が災害を乗り越えるために有効な情報を届ける工夫も必要と感じた。 アンケートは二次元コードからWEB回答ができるようになり、回答率の向上につながったことは良かったと感じた。情報提供について工夫が必要だと感じている。病院に福祉サービスのリーフレットを置く、市のホームページをもっと分かりやすく障害種別ごとに必要な情報へすぐアクセスできるようにするなど検討してほしい。 重複障がいに対応できるヘルパーの拡充を検討してほしい。

会長	手話通訳講座の定員拡大をお願いしたい。 多くのご意見をいただいた。事務局はこれらの声をしっかり受け止めてほしい。次回の審議会では、意見を共有してほしい。
事務局	(3) 坂戸市障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画の構成及び坂戸市障害者計画、坂戸市障害福祉計画(第8期)、坂戸市障害児福祉計画(第4期)の骨子案について
委員	資料4・5を説明 手話施策推進法を踏まえて、手話に関する施策をコミュニケーション支援に限定せず、幅広く全体に関わる施策として位置付けてほしいと思う。
事務局	今後、適切な位置付けを検討し、お諮りする。
進行(事務局)	4 その他 ・坂戸市障害者計画、障害福祉計画(第8期)、障害児福祉計画(第4期)策定スケジュール
事務局	資料6を説明 ・次回の審議会開催日程(予定)
進行(事務局)	5 閉会